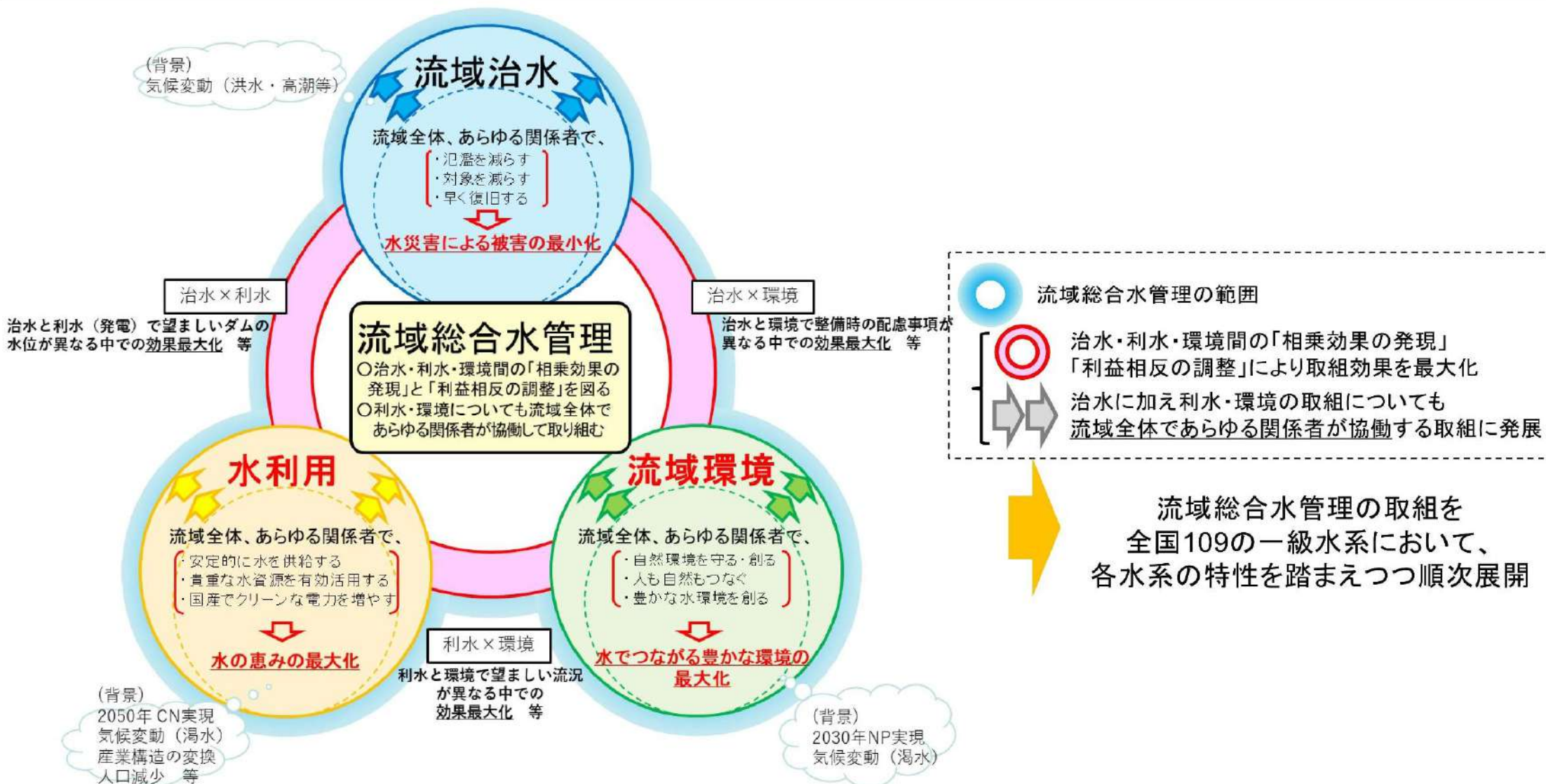


流域治水の最近の話題

令和7年10月2日
千曲川河川事務所
長野県

水管理・国土保全局の取組 ～流域総合水管理の推進～

- 治水に加え利水・環境も流域全体であらゆる関係者が協働して取り組むとともに、流域治水・水利用・流域環境間の「相乗効果の発現」「利益相反の調整」を図るなど、流域治水・水利用・流域環境の一体的な取組を進めることで「水災害による被害の最小化」「水の恵みの最大化」「水でつながる豊かな環境の最大化」を実現させる「流域総合水管理」を推進する。

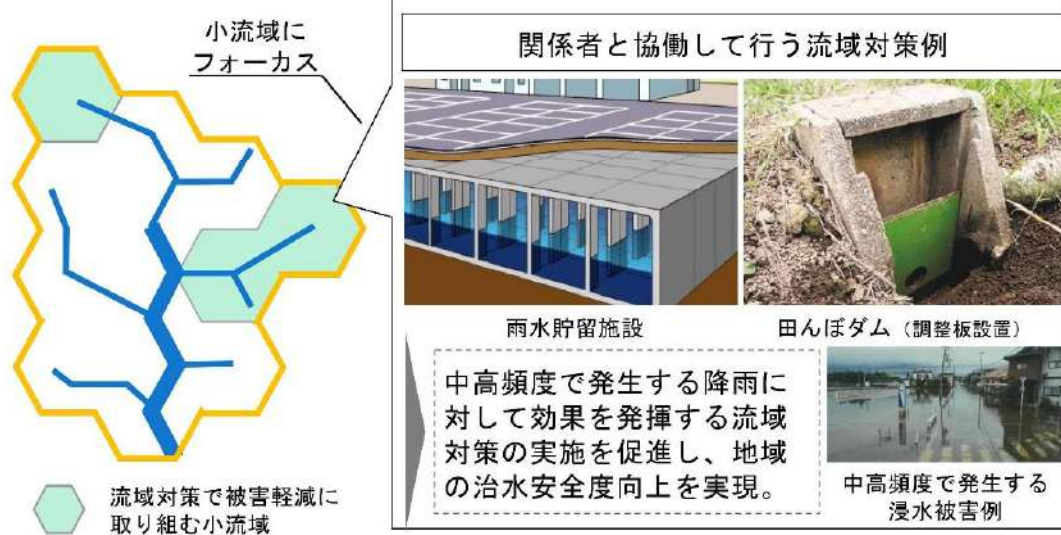


流域のあらゆる関係者の協働を駆動する流域対策効果の見える化

- 支川流域や上流域等の小流域（スモールスケール）で、地域の治水上の課題や今後のまちづくりのあり方を踏まえ、オーダーメイド方式で目標を設定し、流域対策効果の見える化を行うことで、自らの取組の効果が実感されることによる参加機運の醸成や合意形成の促進を図る。

背景・課題

- 流域治水の推進は、あらゆる関係者の協力が必要であり、そのためには参加機運を醸成することが必要。
- 中高頻度で発生する降雨により支川流域や上流域等の小流域（スモールスケール）で生じる洪水や内水に対して、地形や土地利用の状況を踏まえ、様々な流域対策を組み合わせることが必要。
- 一方、様々な流域対策を組み合わせたことにより被害を防止・軽減させる流域対策の目標や効果を適切に示すことができていない。
- 地域の治水上の課題等を踏まえ、地域の実情に即した目標を設定した上で、様々な流域対策を組み合わせたことによる効果が見える化することで、関係者に取組の効果が実感され、流域対策への参加機運が高まり、更なる施策のベストミックスが図られることが期待される。



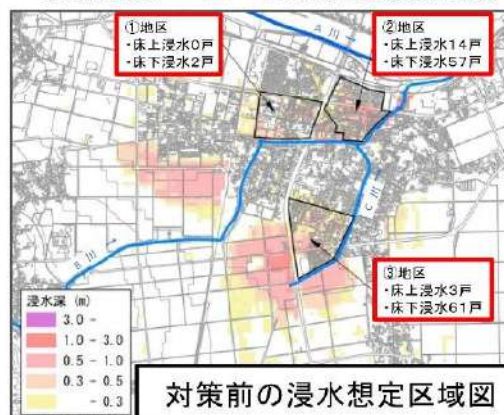
今後の取組

- 上流域や支川流域等の小流域（スモールスケール）で、地域の治水上の課題や今後のまちづくりのあり方を踏まえ、オーダーメイド方式で目標を設定し、流域対策効果の見える化を行う。

流域対策の目標設定と効果の見える化のイメージ

《例：床上浸水解消に着目した目標設定》

流域対策メニュー：雨水貯留施設整備、田んぼダム、貯留機能保全区域による貯留 等



・家は床上浸水と床上浸水で被害が大きく異なることがポイント ⇒ 床上浸水戸数等で評価



・農地の浸水被害は、収穫への影響がポイント ⇒ 浸水継続時間等で評価

特定都市河川制度を活用した流域治水の推進

○「流域治水」の本格的な実践に向けて、令和3年11月1日に全面施行された流域治水関連法の中核をなす**特定都市河川浸水被害対策法**※1に基づき、**特定都市河川の河川指定を全国に拡大**。 ※1 特定都市河川浸水被害対策法等の一部を改正する法律(令和3年法律第31号)

○特定都市河川においては、河川管理者、下水道管理者、都道府県知事、市町村長等が構成員となる**流域水害対策協議会**で法的枠組みに基づき**流域水害対策計画**を共同で策定し、河川整備、下水道整備及び土地利用を含む流出抑制対策や規制※2等を連携して実施。

※2 雨水浸透阻害行為の許可及び雨水貯留浸透施設整備計画の認定、貯留機能保全区域の指定、浸水被害防止区域の指定など

○引き続き、特定都市河川の指定を推進するとともに、**流域水害対策計画の内容の充実や実施の強化**に取り組むことで実効性をより高める。

特定都市河川の指定等の状況

特定都市河川指定数 33水系403河川(令和7年8月1日時点)

【凡例】

○: 指定済み特定都市河川(33水系403河川)

◎: 指定済み特定都市河川のうち
流域水害対策計画策定済み
(20水系296河川)



白地図(国土地理院)を加工して作成

	大臣指定	知事指定
北海道	千歳川(北海道)	-
東北地方	吉田川(宮城県)、石子沢川(山形県)、釈迦堂川(福島県)、多田川(宮城県)	高城川(宮城県)、尾袋川(宮城県)、小田川(宮城県)、逢瀬川(福島県)、谷田川(福島県)、中村川(青森県)、旧雄物川(秋田県)
関東地方	鶴見川(東京都、神奈川県)、中川・綾瀬川(茨城県、埼玉県、東京都)	境川(東京都、神奈川県)、引地川(神奈川県)、一宮川(千葉県)、林泊川(群馬県)
北陸地方	-	島川(新潟県)、前川(新潟県)、太田沢川(新潟県)
中部地方	中村川(三重県)、波瀬川(三重県)、黒沢川(静岡県)	新川(愛知県)、巴川(静岡県)、境川(愛知県)、猿渡川(愛知県)、赤川(三重県)
近畿地方	大和川(奈良県)、芥川(京都府、大阪府)	寝屋川(大阪府)、西川(和歌山県)
中国地方	江の川(広島県)	本川(広島県)
四国地方	日下川(高知県)	都谷川(愛媛県)
九州地方	六角川(佐賀県)、隈之城川(鹿児島県)	甲突川(鹿児島県)、新川(鹿児島県)、稲荷川(鹿児島県)、下弓削川(福岡県)、金丸川(福岡県)、竜野川(熊本県)

特定都市河川制度等の活用推進

I. 特定都市河川指定の推進

○河川整備のみでは十分な対応が困難な河川が全国的に存在 → ○特定都市河川の指定を促進

II. 流域水害対策計画の質的充実及び実施の強化

○流域水害対策計画における、対策の実施状況等に濃淡 → ○各取組の進捗状況の公表、見える化
○各取組における役割分担の明確化

○水災害ハザードエリア等における土地利用・住まい方 → ○計画策定段階における河川部局・まちづくり部局の連携強化

○貯留機能保全区域指定にあたり土地所有者等の負担が大きい → ○貯留機能保全区域の指定に向けた土地所有者等の負担軽減・緩和のための支援
○先行事例の取組を横展開

【先行事例】 貯留機能保全区域の指定～大和川流域～



指定された区域11.6ha(田原本町)



指定された区域3.7ha(川西町)

その土地が元来有している貯留機能を阻害するおそれのある行為(盛土等)に対して届出により事前に把握するとともに、必要な助言・勧告を行い、土地の貯留機能を保全するために制限

※土地所有者の同意を得て、令和6年7月30日に奈良県が指定。

災害リスク情報の充実による防災まちづくりや的確な避難行動の支援

○ 大・中小河川の氾濫や内水氾濫を反映した水害リスクマップや、時間とともに進行する氾濫を踏まえた浸水特性に関する情報を提供することで、防災まちづくりや的確な避難行動を支援。

背景・課題

現在公表されている浸水想定区域図は、

①「浸水深」と「浸水範囲」の情報しかなく、土地の相対的なリスク情報（浸水頻度等）が把握できない。

⇒市町村の広範囲で一様に深い浸水深が広がる想定である場合には、役場・病院・避難場所（小中学校・公民館等）等の基幹施設を、相対的に安全な場所に配置したいが、その判断ができない。

②外水氾濫と内水氾濫による浸水範囲が別々に公表されており、かつ、外水・内水氾濫の発生順序が明らかではない。

⇒外水氾濫から避難するタイミングで既に内水氾濫が発生している状況にあるなど、安全に避難できない場合が生じうる。

今後の取組

①水害リスクマップ（浸水頻度図）の作成・公表

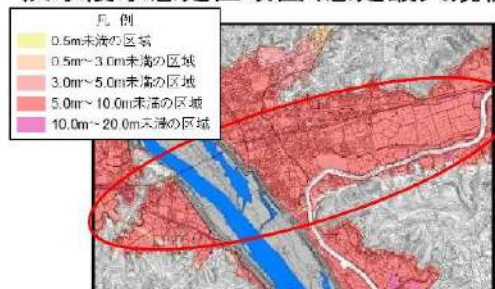
・内水氾濫も反映した水害リスクマップを国管理河川で作成
（令和9年度以降も実施し早期完成を目指す）

②適切なタイミングでの避難情報の発令判断に資する解説情報の提供

・モデル河川において、避難情報を発令する市町村長等に対し、地域ごとの氾濫特性（本川氾濫や支川、内水氾濫の発生順序）や住民が取るべき行動に関する解説情報を提供

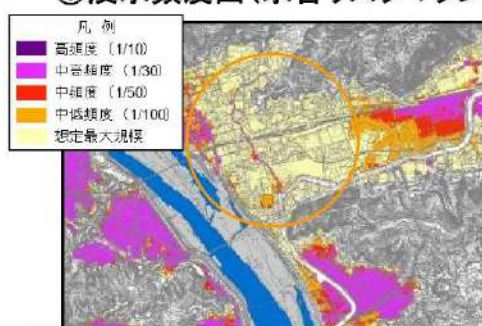
（令和9年度以降は、浸水センサ等によりリアルタイムに把握した浸水状況を市町村長の避難情報の発令判断にどう活用するかを検討）

洪水浸水想定区域図（想定最大規模）



水災害リスク情報の
充実

①浸水頻度図（水害リスクマップ）



相対的に浸水頻度が低いエリアに基
幹施設を配置することが考えられる

②適時の避難情報発令のための解説情報



支川や内水を含めた氾濫を時系列で把握し、
早めに避難する必要がある地域を抽出 等

①広範囲で一様に深い浸水深が広がり、相対的に安全な場所を把握できない
②外水／内水氾濫の発生タイミングがわからない

<①水害リスクマップ>

（行政）

○ 土地利用の規制

（地域、コミュニティ、企業）

○ 企業の立地誘導・選択等に活用

○ 企業の業務継続計画への活用

（個人）

○ 住まい方の工夫

<②的確な避難行動>

（行政）

○ 地域の浸水特性を踏まえた適切な避難行動の呼びかけへの活用

〔水防計画、地域防災計画や流域タイムライン等の改善〕

（地域、コミュニティ、企業）

○ 要配慮者施設の避難確保計画・訓練等に活用
（個人）

○ 防災行動計画（マイ・タイムライン）の作成時に参考情報として活用

災害リスクの自分事化(流域治水に取り組む主体を増やすための取組)

- 流域治水のロゴマークやオフィシャルサポーター制度、NIPPON防災資産(令和6年9月に初回認定)などの施策を通じ、住民や企業などが自らの水災害リスクを認識し、自分事として捉え、主体的に行動することに加え、さらに視野を広げて、流域全体の被害や水災害対策の全体像を認識し、自らの行動を深化させていく流域治水の自分事化を推進。

背景と課題

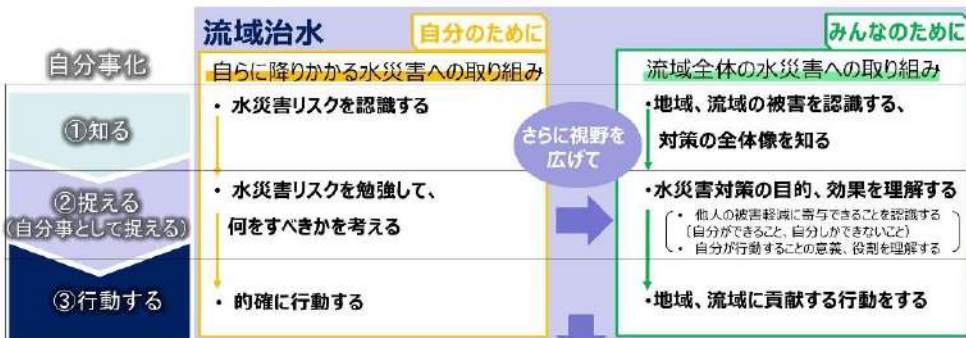
【背景】

水災害リスクの自分事化

住民や企業などが自らの水災害リスクを認識し、自分事として捉え主体的に行動する。

流域全体の水災害への取組へ

水災害から自身を守ることからさらに視野を広げて、地域、流域の被害や水災害対策の全体像を認識し、自らの行動を深化させることで、流域治水の取組を推進する。



持続的な発展、ウェルビーイング

【課題】

- 水災害のリスクを知り、行動につなげていく上では、それを自分のこととして捉える「自分事」が課題。
- さらにその視野を流域に広げ、流域治水に取り組む主体を増やしていくことが重要。

流域治水の推進に向けた普及施策及び行動計画をとりまとめ

(「水害リスクを自分事化し、流域治水に取り組む主体を増やす流域治水の自分事化検討会」(令和5年8月))

自分事化の具体的な施策の推進

■「NIPPON防災資産」の認定制度

災害伝承に関する良質な施設や活動の普及・拡大

- 本制度の創設後初めて、
22件(優良認定:11件、認定:11件)を認定。

【令和6年9月5日公表】

新しい認定案件の発掘や学校教育、インフラツーリズムとの連携など、関係者を少しずつ増やしながら、「NIPPON防災資産」の認定制度のより一層の発展・活性化を図っていく。



NIPPON防災資産
のロゴマーク

■流域治水オフィシャルサポーター制度

企業・団体等による新たな流域治水の普及・啓発

- 令和7年度流域治水オフィシャルサポーターとして
148の企業・団体等を認定。

<流域治水オフィシャルサポーター取組例(令和6年度)>



サポーター同士の交流会



地域住民が参加するイベントの開催

■流域治水ロゴマークの普及促進

流域のみんなが
水害対策に取り組む
きっかけに



- 全国各地で流域治水を広く周知・PR
するための広報活動に活用。

■ダイナミックSABOプロジェクトの普及促進

砂防関係施設を有効活用した
防災啓発・地域活性化

- 事例集の更新、発信、
共有するとともに、
地域活性化に資する
イベントや研修等を通した
様々な団体との連携機会
の創出を図る。



観光連盟主体の砂防ダムツアー
【長野県小谷村(砂防堰堤)】



流域における良好な自然環境の保全・創出

- グリーンインフラの取組として、①良好な河川環境の保全・創出、②民間企業の環境保全活動への参画の促進、③水辺の拠点と地域拠点の相互連携による流域の魅力向上・地域活性化等を進め、水でつながる豊かな環境の最大化を目指す。

背景・課題

- ①これまでの河川環境施策の実施事例・データを踏まえ、現在、河川環境の定量的な目標を順次設定(河川整備計画に位置づける)しているところ。生物多様性の更なる保全等のためには、河川の流量を確保すればよいだけでなく、生物の生活史に応じた流量変動や土砂動態等の管理が必要であるが、技術的知見が十分ではない。
- ②ネイチャーポジティブ※が世界の潮流となり民間企業の環境保全活動への関心が高まっているが、知見やノウハウを必ずしも有していない。
- ③地域活性化の取組として「かわまちづくり」による水辺の拠点整備を進めてきたが、必ずしも流域内の他の地域拠点との相互連携が十分に取れていない。

今後のあり方

- ①グリーンインフラの取組として、生物の生活史に応じた望ましい流量変動や土砂動態の管理のあり方等についてデータの蓄積や研究開発を推進する。
②環境保全活動に関心のある民間企業と、環境保全活動の知見やノウハウを有する河川協力団体等の市民団体とをマッチングする仕組みづくりを進める。
③「かわまちづくり」等の水辺の拠点と、流域内の地域文化や観光資源等の地域拠点とを、河川管理者と自治体の連携により結びつけ、流域全体の魅力・価値を向上させる

※ ネイチャーポジティブとは、生物多様性の損失を止め、回復動向に集めることを意味し、COP15で採択された「昆明・モントリオール生物多様性枠組」において、2030年までに陸域及び内陸水域、並びに海域及び公海域の少なくとも30%を保全する「30x30目標」が掲げられている。

水でつながる豊かな環境の最大化

- ①流量変動や土砂動態の管理等
による流域環境の取組
- ・動的な河道の維持管理手法の検討
 - ・データを活用した戦略的な河川
環境マネジメントの実装

- ①豊かな氾濫原環境の創出、
河川内外の連続性の確保



- ②多様な主体同士の交流・連携
 - ・環境保全を行う市民団体・民間企業のマッチング支援
- ②民間企業等が積極的に参加したくなる仕組みづくり
 - ・河川環境の改善や回復に取り組む企業を認証する仕組みの創設
- ③流域ならではの水辺の魅力や価値の向上
 - ・かわまちづくりの相互連携等を推進



上下流連携を促すコミュニティデザイン分析

- 上下流連携を促進させる機会の充実や連携の鍵となるコミュニティデザインの分析を行い、グッドプラクティスの全国展開を図ることで、流域における流域治水・水利用・流域環境への理解を深め、流域全体の営みを支える関係人口づくりと Well-being の向上を目指す。

背景・課題

- ・ 島国である日本は、古来から自然の恵みを最大限享受し、独自の文化を発展させてきた。
- ・ とりわけ、恵みの源泉となる川を介して、食や祭りなどの文化、伝統、風土を育みながら、経済活動（産業）を産み出すことで、地域のアイデンティティを形作っている。
- ・ 行政区を超え、山から海まで川を通じて繋がり同じ水資源を授かる空間である“流域”は、高度経済成長を経て飛躍的な発展を遂げた日本を、水利用、環境という側面で支えてきた一方、水災害に対する共通の畏敬・畏怖の念を抱かせる存在である。
- ・ 人口減少局面である今日においても、流域の人々の暮らしの Well-being を向上させるためには、一つの運命共同体である流域を通じて育まれてきた歴史・文化等の個々の地域らしさ等の価値を見失うことなく、その価値を最大化させていくことが重要。

～流域が連携し、地域らしさを育んでいる事例～



利根川・荒川水源地域対策基金を活用した地域振興
(思川開発事業(南摩ダム))



健康村里山自然学校事業等
(群馬県川場村一世田谷区)



流域治水 収穫祭
(吉田川流域、高城川流域)

今後の取組

●令和8年度の取組

①上下流連携を促進させる機会の充実

流域治水協議会や水源地域未来会議などを活用し、下流地域から上流地域の流域ぐるみで様々なかたちの関わりの形成や、地域のつながりを形成する地域資源の分析の実施等により、流域自治体・企業・住民等のあらゆる流域関係者の流域での取組への理解醸成を促進。

②優良事例のコミュニティデザイン等の分析

流域が連携し、地域らしさを育んでいる優良事例について、合意形成のプロセス等のコミュニティデザイン等の分析を実施し、事例集を取りまとめ。

●令和9年度以降の予定

- ・ 事例集も活用し、グッドプラクティスを全国展開。

→流域における流域治水・水利用・流域環境への理解を深め、流域全体の営みを支える関係人口づくりと Well-being の向上を実現。

スケジュールとアウトプット

- ・ 令和8年度中に、既に上下流連携の取組が実施されている優良事例について、コミュニティデザイン等の分析を実施し、事例集をとりまとめ。

長野県における流域治水の取組について

【長野県における流域治水の取組みの推進・深化】

【令和3年度～】

①近年、**水害が頻発化・激甚化** + ②**気候変動**の影響により**降雨量が1.1倍**



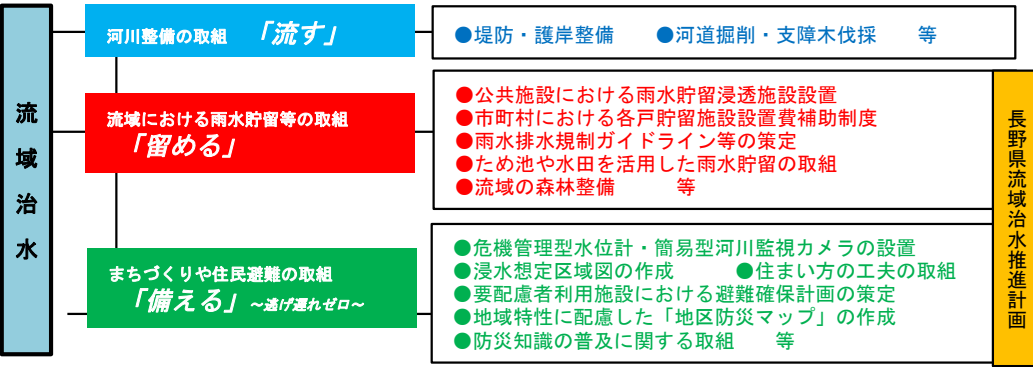
全国的に**流域治水**への転換が進められている中、**県の独自計画を策定**

「長野県流域治水推進計画」（令和3年2月策定）

計画期間：令和3～7年度（5か年）
内 容：計画期間内で実施する取組目標を定め「流域治水」を推進



国土交通省資料より

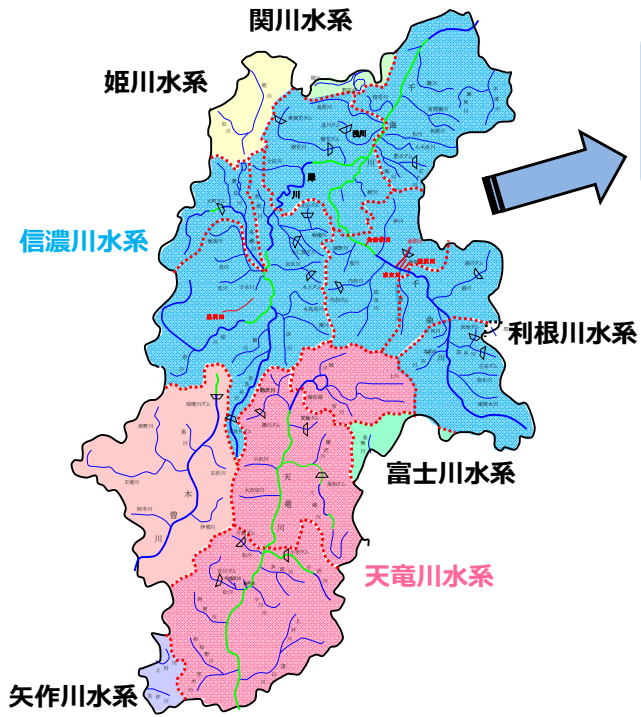


長野県流域治水推進計画

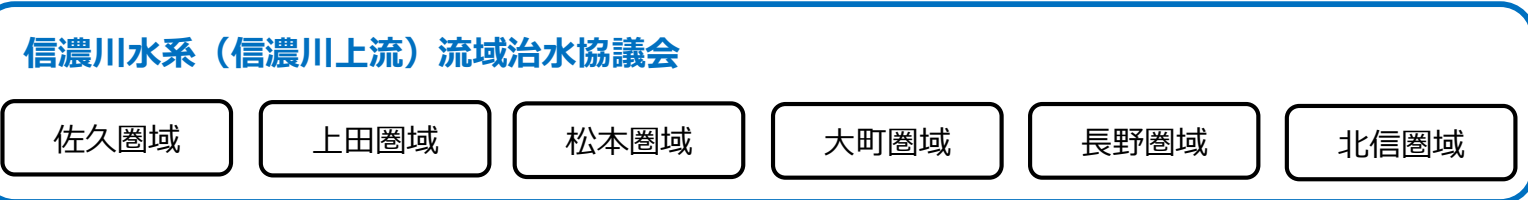
➡ 長野県流域治水推進計画による普及啓発により「流域治水」という意識の醸成は図られつつあるが、**更なる取組が必要**

➡ 「水害リスク」を『自分事』と捉え、流域対策を『行動』に移行

【今後の展開（案）】



圏域分け（案）



今後の取組み（案）

- 「信濃川水系（信濃川上流）流域治水協議会」の枠組みを活用し、上記圏域で具体的な取組について議論
- 圏域内の関係者と治水上の課題や今後のまちづくりの在り方等について議論
- 地域の実情に即した流域対策の目標を設定し、様々な流域対策を組み合わせることによる効果の「見える化」を行う
- 更なる参加機運の醸成や合意形成の促進を図り、流域治水を推進する
- 各小流域の取組状況等については、流域治水全体協議会で協議・情報共有を行う

特定都市河川の指定について

(一) 矢出沢川・(一) 黄金沢川

矢出沢川では、平成22年8月豪雨による洪水で浸水被害が発生。近年は、集中豪雨等に伴う内水氾濫が頻発。矢出沢川流域は、中下流部で市街地が形成され人口・資産が集中しており、気候変動に伴う水害の頻発化・激甚化が予想されることから、特定都市河川の指定によるハード整備の加速化、水害に強いまちづくりを両輪とした流域治水の取組を推進し、安全性向上を図る。

位置図



流域図



流域面積 : 約25km²
流域内河川数 : 2河川
計画規模 : 1/30
関係市町村 : 上田市
主な浸水被害 : 平成22年8月
浸水面積292.8ha
床上浸水57戸
床下浸水84戸

今後の予定

R8.1月30日

特定都市河川指定・許可事務開始

流域水害対策協議会設置

流域水害対策計画検討・協議調整

R9年度中 (目標)

流域水害対策計画策定

計画の実施 (浸水被害の防止・軽減)

平成22年8月 被害状況



近年の浸水被害状況 (R4、R5)



矢出沢川の状況 (①下流部 ②中流部)

